

# NFU SEMINAR REPORT

## 日本福祉大学 セミナー報告

全国13の地域で日本福祉大学セミナーを開催し、そのうち10会場で文化講演会が行われました。その中から4会場をピックアップし、講演内容を写真とともにレポートします。

### ■ 2018年度日本福祉大学セミナー開催地

#### 文化講演会型セミナー

開催日	開催地	会場
8月 4日(土)	東京都	主婦会館プラザエフ
9月15日(土)	大阪市	法音寺大阪支院
11月10日(土)	松山市	にぎたつ会館

#### 文化講演会+父母懇談会型セミナー

開催日	開催地	会場
6月17日(日)	名古屋	ホテル名古屋ガーデンパレス
7月 1日(日)	浜松市	サーラシティ浜松
7月15日(日)	岡山市	丸田産業株式会社 貸会議室
9月 1日(土)	福井市	福井パレスホテル
9月29日(土)	福岡市	福岡ガーデンパレス
10月 6日(土)	四日市市	四日市シティホテル
11月17日(土)	長野市	ホテルメルパルク長野

#### 父母懇談会型セミナー

開催日	会場
7月 7日(土)	日本福祉大学半田キャンパス
9月 8日(土)	日本福祉大学東海キャンパス
11月 3日(土)	日本福祉大学東海キャンパス
11月 3日(土)	日本福祉大学美浜キャンパス
11月 4日(日)	日本福祉大学美浜キャンパス
12月22日(土)	日本福祉大学東京サテライト

### 名古屋会場

テーマ 教育に科学的根拠を

講師 中室 牧子 慶應義塾大学総合政策学部准教授



### 21世紀を生きる子どもたちに必要な教育が、エビデンスから見えてくる。

講師として壇上に上がったのは、教育経済学を専門とし、発行部数30万部を突破した『「学力」の経済学』の著書である中室氏。冒頭で「これからはビッグデータの時代、だからこそ教育とは何たるかを経済学というツールを用いて明らかにしたい」と述べ、子どもに勉強しなさいと言うのは効果的か、お小遣いなどの“ご褒美”は有効か、など興味深い研究を取り上げながら科学的根拠(エビデンス)に基づいた教育論を紹介されました。また日本の財政赤字についても触れ、「私たちがまずできるのは、教育に使える限られた資源を効果的なものに集中させること」と主張。21世紀を生き抜くためには、創造的で概念的で答えがない問題に答えを出す能力を持っている子どもを育てることが大事であるとし、家庭でも「成長」「自主性」「目標」の3つを意識させる環境づくりをしてほしいと訴えました。データに基づいたさまざまなアドバイスに、会場では熱心にメモを取る参加者の姿が見られました。

### 四日市会場

テーマ 「ダウン症の娘と共に生きて～翔子との30年間のあゆみ～」

講師 金澤 泰子 日本福祉大学客員教授



### 30年、育ててきて思うのは、闇の中でも必ず光は差しているということ。

娘の翔子さんがダウン症と診断され、「一時は一緒に死のうとさえ思った」と語る泰子さん。そんな親心とは裏腹に、常に前向きに過ごしてきた翔子さんのエピソードを紹介し、「学校に行けなかった時期に書道を指導しましたが、その時も弱音を吐かず書き続けてくれた。だからこそ今がある」と懐古。また「学歴社会に入れなかった反面、競争心や世俗への欲がなく、人に喜んでほしいという純粋な気持ちで書に向かっている。それが感動を呼ぶ書を書いているのでしょう」と翔子さんの書を評しました。最後は翔子さんが30歳から始めた一人暮らしの様子にも触れ、どんな状況でも子どもの可能性を信じる大切さを伝えました。

### 長野会場

テーマ 「ひとり暮らしの増加と今後～どのような社会を築いていくか～」

講師 藤森 克彦 日本福祉大学福祉経営学部教授



### 新しい福祉国家の姿は、家族依存ではなく社会全体で支え合う構造。

福祉国家は家族依存型、政府依存型、市場依存型の3つに分類され、日本は典型的な家族依存型国家です。藤森教授は冒頭で「日本は岐路に立っている。なぜなら世帯の形態が変わり、家族が役割を果たせなくなっている」と話し、その象徴として単身世帯増加の実態を詳しく紹介。また「2040年には全世帯の約4割が単身世帯になると予測され、いざというときに支え合える社会に変えていく必要がある」と指摘し、介護保険を拡充するなどの「社会保障の機能強化」、近所の方と助け合える「地域のネットワークづくり」、長く働き続けられる「就労環境の整備」の3点が今後重要になるだろうとし、実現に向けたポイントを述べられました。

### 福岡会場

テーマ 認知症高齢者と共に暮らすまちづくり～住民相互の支え合いに焦点をあてて～

講師 児玉 善郎 日本福祉大学学長

### 松山会場

テーマ 人と自然と福祉がつながる社会～お福路文化から考える～

講師 加藤 俊生 石手寺住職

### 東京会場

テーマ 「これまでの社協、これからの社協」

講師 渋谷 篤男 中央共同募金会常務理事、日本福祉大学客員教授



### 社会福祉協議会が培ってきたものを発揮し、地域共生社会の実現へ。

全国社会福祉協議会に長年勤めた経験を持つ渋谷氏。講演前半では社会福祉協議会(以下、社協)の活動の変遷を紹介し、それを踏まえた上で、近年の施策が目指す“地域福祉”の姿を説明。国が提案する“地域共生社会”に対し、社協はどう動くべきかについて考えを述べられました。渋谷氏は「地域共生社会の理念や方向性はこれまで社協が進めてきたことと概ね重なるが、“我が事”にする必要がある」とし、社協に必要なポイントとして4点を抽出。「1点目は地域共生社会あるいは地域福祉の理念を共有すること。2点目は総合相談生活支援ですべてのニーズを拾うこと。3点目は公費財源について部署間の調整を関わりながらうまく行うこと。そして最後に地域福祉全体のガバナンスのプラットフォームづくりが重要」と述べ、「これらすべてが社協の得意とするところであり、存在感を示せること。一人ひとりの職員もこれまで以上に問題意識を持って頑張ってほしい」と締めくくりました。



講演後、渋谷氏、日本福祉大学社協職員同窓会 世話人代表の山崎睦男氏、社会福祉学部の原田正樹教授の懇談会を実施しました。

### 浜松会場

テーマ 子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワーク

講師 野尻 紀恵 日本福祉大学社会福祉学部准教授

### 岡山会場

テーマ 地域共生社会の実現にむけて

講師 原田 正樹 日本福祉大学社会福祉学部教授

### 福井会場

テーマ 地域包括ケアにおける安心して住み続けられる居住支援について

講師 児玉 善郎 日本福祉大学学長

### 大阪会場

テーマ 「我が事・丸ごと」地域共生社会の理想と現実～合理的配慮を考える～

講師 綿 祐二 日本福祉大学福祉経営学部長、教授

### 保護者の皆様にインタビュー

大学で得た経験と娘らしさを活かして、素敵な社会人に。

四日市会場



武井 弘幸さん  
国際福祉開発学部 国際福祉開発学科 3年  
穂乃花さん/三重県出身

3年生の娘の就職活動が気になり、相談会で学部の先生に話を伺いました。娘は子どもに好かれるほんわかした雰囲気、上手に周りを巻き込める子。大学の海外研修でカンボジアに行った際には、現地の教育施設で子どもたちに教える経験をしたようで、帰国後に笑顔でいろいろと報告してくれました。他にも大学で幅広く学んでいる様子なので、その経験や娘の良さを活かせる職業に就いてほしいですが、娘ももう立派な大人、やりたいことに積極的に挑戦して成長し、困った時には周りの信頼できる人に相談して、自分で幸せな人生を切り開いてほしいですね。娘が選んだ道を、親として陰ながら応援します。(10月6日取材)

サポート体制のきめ細やかさが素晴らしい大学。

長野会場



赤沼 幸一さん 公子さん  
社会福祉学部 社会福祉学科 4年  
寛太さん/長野県出身

日本福祉大学は、とても面倒見が良い大学という印象です。就職のことで息子が地域オフィスの方に何度もアドバイスをもらったり、長野での実習時様子を見に来てくれたり、急病時に大家さんが通院に付き添ってくれたり。親身にしていただいている話を聞き、安心してお任せすることができました。大学生になって行動力が身に付き、やりたい仕事も見つけ、地元の病院でケースワーカーとして働くことを目指す息子。今は国家資格の勉強に奮闘中ですが、取得したら終わりではなく、社会に出てからの勉強の方が大切。卒業後も向上心を持って、皆さんのお役に立てるような人間になってほしいと思います。(11月17日取材)